

令和4年度 事業報告書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

学校法人 山村学園

1. 法人の概要

2. 財務の概要

3. 山村学園短期大学

1. 法人の概要

(1) 基本情報

学校法人 山村学園（法人本部）
埼玉県川越市田町 16 番地 2

(2) 建学の精神（校訓）、教育目標

「質実」素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。
「英知」高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。
「愛敬」人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。
(教育目標)
「地域社会に貢献できる、心豊かで有為な人材の育成」

(3) 学校法人の沿革

昭和26年3月1日	学校法人山村学園として設置認可
昭和26年4月1日	入間郡坂戸町に山村女子高等学校を開校 家庭科を設置
昭和33年4月1日	山村女子高等学校に商業科を設置
昭和34年7月1日	川越市にあらたに山村女子高等学校設置認可
昭和34年11月3日	坂戸町の既設の山村女子高等学校を山村第二女子高等学校と校名改称、同校商業科は川越市の山村女子高等学校に移設
昭和35年4月1日	山村女子高等学校開校
昭和43年4月1日	山村女子高等学校に普通科を設置
昭和44年4月1日	山村第二女子高等学校家庭科を服飾デザイン科に改称
昭和52年1月5日	山村第二女子高等学校に普通科設置認可
昭和52年4月1日	山村第二女子高等学校に普通科を設置
昭和63年12月22日	山村女子短期大学設置認可
平成元年4月1日	山村女子短期大学開学(国際文化科)
平成3年4月1日	山村第二女子高等学校を山村国際女子高等学校に校名改称
平成11年4月1日	山村国際女子高等学校を山村国際高等学校に校名改称(男女共学化)
平成13年8月1日	山村女子短期大学(国際文化科)の改組転換によりコミュニケーション学科設置
平成13年12月20日	山村女子短期大学に保育学科設置認可
平成13年3月31日	山村国際高等学校服飾デザイン科を廃止
平成14年4月1日	山村女子短期大学を山村学園短期大学に校名改称、並びに保育学科新設(男女共学化)
平成17年3月31日	山村女子高等学校商業科を廃止
平成17年3月31日	山村学園短期大学国際文化科を廃止
平成20年4月1日	山村女子高等学校を山村学園高等学校に校名改称(男女共学化)
平成24年4月1日	山村学園短期大学コミュニケーション学科をキャリア コミュニケーション学科に名称変更
平成27年3月31日	山村学園短期大学キャリア コミュニケーション学科を廃止
平成31年4月1日	山村学園短期大学保育学科を子ども学科に名称変更

(4) 設置する学校・学部・学科等・所在地

山村学園短期大学	子ども学科	埼玉県比企郡鳩山町石坂 604
山村学園高等学校	全日制課程（普通科）	埼玉県川越市田町 16-2
山村国際高等学校	全日制課程（普通科）	埼玉県坂戸市千代田 1-2-23

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和5年5月1日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
山村学園短期大学	子ども学科	100	52	200	118
山村学園高等学校	普通科	440	527	1,240	1,432
山村国際高等学校	普通科	280	328	760	875

(6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
山村学園短期大学	0.71	0.71	0.69	0.67	0.59
山村学園高等学校	1.27	1.11	0.98	1.05	1.15
山村国際高等学校	1.40	1.30	1.13	1.12	1.15

(7) 役員の概要

(令和5年5月1日現在)

<理事定数：7人 現員：7人、監事定数2人 現員2人>

役員	職名	氏名	常勤・非常勤の別	選任区分	選任条項	任期	現職等
	理事	おか 岡 みのる 實	非常勤	理事長	第5条第2項	H20.4.1 ~ 2008.4.1 ~	
				理事会選任	第6条第1項第3号	R2.6.16 ~ R7.6.15 2020.6.16 ~ 2025.6.15	
	〃	の ぐち かず お 野 口 一 夫	常 勤	学長	第6条第1項第1号	H24.4.1 ~ 2012.4.1 ~	山村学園短期大学 学長
	〃	ひら の まさ み 平 野 正 美	常 勤	校長	第6条第1項第1号	H30.4.1 ~ 2018.4.1 ~	山村学園高等学校 校長
	〃	なか やま たつ ろう 中 山 達 朗	常 勤	評議員会選任	第6条第1項第2号	H31.4.1 ~ R6.1.9 2019.4.1 ~ 2024.1.9	山村国際高等学校 校長
	〃	やま むら しげる 山 村 滋	非常勤	評議員会選任	第6条第1項第2号	R5.1.10 ~ R6.1.9 2023.1.10 ~ 2024.1.9	※学外者
	〃	やま ぐち いち ろう 山 口 一 郎	非常勤	理事会選任	第6条第1項第3号	R3.4.1 ~ R8.3.31 2021.4.1 ~ 2026.3.31	※学外者
	〃	ふじ の せい た 藤 野 清 太	非常勤	理事会選任	第6条第1項第3号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	※学外者
	監事	い とう つかさ 伊 藤 司	非常勤	理事長選任	第7条第1項	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	司法書士
	〃	こはやしまつたろう 小林 松太郎	非常勤	理事長選任	第7条第1項	R2.6.16 ~ R7.6.15 2020.6.16 ~ 2025.6.15	

①非業務執行理事等との責任限定契約の状況

寄附行為第46条（責任限定契約）に基づき、非業務執行理事（山村 滋氏、山口一郎氏及び藤野清太氏の各氏）及び監事（伊藤 司氏及び小林松太郎氏の両氏）との責任限定契約を締結しております。

②役員等を被保険者として加入している役員賠償責任保険契約の状況

理事会の決議に基づき、役員賠償責任保険に加入しております。

ア) 保険会社 三井住友海上火災保険株式会社

イ) 被保険者(無記名式) 学校法人山村学園の理事7名、監事2名、評議員（理事兼務を除く）9名

ウ) 保険の名称 学校法人向け役員賠償責任保険

エ) 支払事由及び支払限度額

・支払事由

被保険者である理事、監事、評議員がその地位に基づき行った行為（不作為を含む）に起因して損害賠償がなされたことにより、被保険者が被る損害賠償金や訴訟費用等。

・支払限度額

3億円

(8) 評議員の概要

(令和5年5月1日現在)

<評議員定数：15人 現員15人>

評 議 員	氏 名	選任区分	選任条項	任 期	現 職 等
	の ぐち かず お 野 口 一 夫	学長	第22条第1項第1号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	山村学園短期大学 学長
	ひら の まさ み 平 野 正 美	校長	第22条第1項第1号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	山村学園高等学校 校長
	なか やま たつ ろう 中 山 達 朗	法人の職員	第22条第1項第2号	H31.4.1 ～ R6.1.9 2019.4.1 ～ 2024.1.9	山村国際高等学校 校長
	やま むら まさ こ 山 村 昌 子	法人の職員	第22条第1項第2号	R2.4.1 ～ R6.1.9 2020.4.1 ～ 2024.1.9	山村学園短期大学 事務局次長
	ご とう りゆう じ ろう 後 藤 隆 二 郎	法人の職員	第22条第1項第2号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	山村学園高等学校 教頭
	く どう じゅん 工 藤 潤	法人の職員	第22条第1項第2号	R5.4.1 ～ R6.1.9 2023.4.1 ～ 2024.1.9	山村国際高等学校 教頭
	おか みのろ 岡 実	理事の互選	第22条第1項第3号	R2.6.16 ～ R7.6.15 2020.6.16 ～ 2025.6.15	
	やま ぐち いち ろう 山 口 一 郎	理事の互選	第22条第1項第3号	R3.4.1 ～ R8.3.31 2021.4.1 ～ 2026.3.31	
	さか た まさ え 坂 田 正 枝	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	
	の じま やす こ 野 島 康 子	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	
	とよ いずみ きよ こ 豊 泉 清 子	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	
	はぎ わら もと お 萩 原 基 雄	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	あたご保育園 園長
	やま むら しげる 山 村 滋	学識経験者	第22条第1項第5号	R5.1.10 ～ R6.1.9 2023.1.10 ～ 2024.1.9	
	くろ さわ かず ゆき 黒 澤 一 幸	学識経験者	第22条第1項第5号	R4.1.10 ～ R6.1.9 2022.1.10 ～ 2024.1.9	
	た なか ひさ こ 田 中 久 子	学識経験者	第22条第1項第5号	H31.4.1 ～ R6.3.31 2019.4.1 ～ 2024.3.31	

(9) 教職員の概要

教職員の本務・兼務別の人数

(令和5年5月1日現在)

区 分	教 員		職 員		合 計
	本務	兼務	本務	兼務	
法人本部	0	0	5	0	5
山村学園短期大学	11	17	5	7	40
山村学園高等学校	80	44	9	7	140
山村国際高等学校	57	24	6	5	92
計	148	85	25	19	277

2. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
固定資産	6,458,037	6,471,117	6,515,415	6,503,668	6,482,016
有形固定資産	5,581,949	5,697,175	5,614,369	5,471,279	5,388,046
特定資産	716,821	631,821	761,821	896,821	961,821
その他の固定資産	159,268	142,121	139,225	135,568	132,149
流動資産	938,043	895,342	836,578	867,245	807,846
資産の部 合計	7,396,080	7,366,459	7,351,994	7,370,914	7,289,862
固定負債	1,202,163	1,134,341	1,017,396	923,464	833,332
流動負債	595,427	540,050	500,076	613,640	517,829
負債の部 合計	1,797,590	1,674,391	1,517,472	1,537,104	1,351,160
基本金	9,033,731	9,405,640	9,637,810	9,714,965	9,654,166
繰越収支差額	△ 3,435,241	△ 3,713,572	△ 3,803,288	△ 3,881,155	△ 3,715,464
純資産の部 合計	5,598,490	5,692,068	5,834,522	5,833,810	5,938,702
負債及び純資産の部 合計	7,396,080	7,366,459	7,351,994	7,370,914	7,289,862

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収 入 の 部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生生徒等納付金収入	1,315,107	1,346,698	1,235,945	1,128,647	1,211,571
手数料収入	77,148	59,491	62,413	82,424	77,721
寄付金収入	19,432	42,360	23,655	23,373	69,188
補助金収入	904,540	889,709	946,544	951,921	1,020,943
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	32,555	35,251	36,044	32,161	30,336
受取利息・配当金収入	3	5	1	1	1
雑収入	146,659	142,421	82,615	127,605	62,045
借入金等収入	132,000	60,000	0	30,000	48,000
前受金収入	278,320	215,515	232,439	290,647	263,147
その他の収入	795,183	1,024,153	980,930	885,774	913,133
資金収入調整勘定	△ 451,070	△ 401,538	△ 306,966	△ 365,437	△ 373,726
前年度繰越支払資金	781,585	799,852	771,660	744,827	734,126
収入の部合計	4,031,461	4,213,917	4,065,279	3,931,943	4,056,484

(単位：千円)

支 出 の 部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費支出	1,568,587	1,630,322	1,537,324	1,578,532	1,501,399
教育研究経費支出	392,622	412,951	332,520	390,809	448,239
管理経費支出	152,011	150,391	142,576	138,864	177,146
借入金等利息支出	7,213	7,996	7,056	6,386	5,940
借入金等返済支出	114,710	134,434	113,948	116,348	124,148
施設関係支出	201,996	273,217	40,030	62,656	62,894
設備関係支出	32,072	47,435	103,157	24,440	89,326
資産運用支出	85,000	65,000	140,000	135,000	65,000
その他の支出	831,293	867,006	971,683	883,468	913,609
資金支出調整勘定	△ 153,894	△ 146,496	△ 67,843	△ 138,686	△ 54,472
翌年度繰越支払資金	799,852	771,660	744,827	734,126	723,254
支出の部合計	4,031,461	4,213,917	4,065,279	3,931,943	4,056,484

イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入 計	2,476,929	2,480,220	2,339,381	2,312,806	2,391,498
教育活動資金支出 計	2,113,220	2,193,662	2,012,374	2,108,200	2,126,352
差 引	363,709	286,558	327,007	204,606	265,147
調整勘定等	△ 65,651	△ 63,025	3,807	76,282	△ 39,789
教育活動資金収支差額	298,058	223,533	330,814	280,888	225,357
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入 計	18,511	185,710	57,832	33,326	80,305
施設整備等活動資金支出 計	319,067	385,652	253,187	192,096	187,220
差 引	△ 300,556	△ 199,942	△ 195,354	△ 158,770	△ 106,915
調整勘定等	△ 5,406	4,856	△ 33,799	11,565	△ 23,219
施設整備等活動資金収支差額	△ 305,962	△ 195,086	△ 229,153	△ 147,205	△ 130,134
小計（教育活動資金収支差額 ＋施設整備等活動資金収支差額）	△ 7,904	28,447	101,661	133,683	95,224
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入 計	822,565	798,522	847,715	824,323	829,628
その他の活動資金支出 計	796,393	855,161	976,208	968,707	935,724
差 引	26,172	△ 56,639	△ 128,493	△ 144,384	△ 106,096
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	26,172	△ 56,639	△ 128,493	△ 144,384	△ 106,096
支払資金の増減額 (小計＋その他の活動資金収支差額)	18,268	△ 28,192	△ 26,833	△ 10,701	△ 10,872
前年度繰越支払資金	781,585	799,852	771,660	744,827	734,126
翌年度繰越支払資金	799,852	771,660	744,827	734,126	723,254

③事業活動収支計算書関係

事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,315,107	1,346,698	1,235,945	1,128,647	1,211,571
	手数料	77,148	59,491	62,413	82,424	77,721
	寄付金	8,952	9,925	10,560	10,280	34,873
	経常費等補助金	896,509	886,534	912,745	931,689	974,953
	付随事業収入	32,555	35,251	36,044	32,161	30,336
	雑収入	146,659	142,421	82,612	127,605	62,045
	教育活動収入 計	2,476,929	2,480,320	2,340,319	2,312,806	2,391,498
	事業活動支出の部					
	人件費	1,570,830	1,628,448	1,533,727	1,576,948	1,497,015
	教育研究経費	561,691	588,091	513,180	577,114	639,779
	管理経費	197,327	197,931	191,691	186,391	222,591
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出 計	2,329,848	2,414,470	2,238,598	2,340,454	2,359,385
	教育活動収支差額	147,081	65,850	101,721	△ 27,648	32,114
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	3	5	1	1	1
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入 計	3	5	1	1	1
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	7,213	7,996	7,056	6,386	5,940
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出 計	7,213	7,996	7,056	6,386	5,940
	教育活動外収支差額	△ 7,209	△ 7,991	△ 7,055	△ 6,385	△ 5,939
	経常収支差額	139,872	57,859	94,666	△ 34,033	26,175
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	19,041	35,721	47,835	33,326	80,525
	特別収入 計	19,041	35,721	47,835	33,326	80,525
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	14,332	0	0	0	1,375
	その他の特別支出	0	2	47	5	433
	特別支出 計	14,332	2	47	5	1,808
	特別収支差額	4,710	35,719	47,788	33,321	78,717
	基本金組入前当年度収支差額	144,582	93,578	142,454	△ 712	104,892
	基本金組入額合計	△ 185,936	△ 373,481	△ 232,170	△ 99,843	△ 119,024
	当年度収支差額	△ 41,355	△ 279,904	△ 89,716	△ 100,555	△ 14,132
	前年度繰越収支差額	△ 3,393,886	△ 3,435,241	△ 3,713,572	△ 3,803,288	△ 3,881,155
	基本金取崩額	0	1,573	0	22,689	179,822
	翌年度繰越収支差額	△ 3,435,241	△ 3,713,572	△ 3,803,288	△ 3,881,155	△ 3,715,464
(参考)						
	事業活動収入 計	2,495,974	2,516,046	2,388,155	2,346,133	2,472,025
	事業活動支出 計	2,351,392	2,422,469	2,245,701	2,346,845	2,367,133

3. 山村学園短期大学

I 現状

- 1 概要
- 2 建学の精神、教育目標、三つのポリシー
- 3 18歳人口
- 4 学生募集
- 5 生活指導
- 6 求人・就職
- 7 本学への評価
- 8 財務状況
- 9 行政の施策

II 令和4年度の事業報告の概要

令和4年（2022年）度事業報告一覧表

I. 現状

1. 概要

令和5年度入試において入学予定者が52名（うち、職業訓練生11名）となった。目標としていた80名に届かず、昨年度の70名をも大幅に下回った。財務状況は相当厳しい状況である。

教育面では、満足度調査、授業評価、就職先からの評価などは、一定レベル以上であり、引き続き充実が図られているが、授業アンケート及び卒業時に実施する満足度調査においては、前年度を下回る数字となり、コロナ禍による教育活動への影響があったと考えられる。

令和4年度においても、私立大学等改革総合支援事業補助金制度、高等教育無償化、幼児教育の無償化への対応に重点的に取り組み、私立大学等改革総合支援事業補助金では、タイプ3について採択され、約630万円の補助金を獲得することができた。

令和4年度は、第三者評価の実施年であり、9月にZoomによる調査を終え、令和5年3月10日に、適格認定を受けた。

学習成果や三つのポリシーの見直しについては、例年通り点検を行った。

就職に関しては、保育者のニーズが高く、依然高い就職率を維持している。この傾向は向後数年間は続くと思われる。

2. 建学の精神、教育目標、三つのポリシー

(1)建学の精神、教育目標

山村学園短期大学 教育方針	
○校訓（建学の精神の流れをくむシンボリックなもの） 「質実」 素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。 「英知」 高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。 「愛敬」 人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。	
○寄附行為	「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、社会の発展に有為な人材を育成することを目的とする。」
○短大学則第1条第2項	「本学は、学校教育法に基づき、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かな人材を育成し、もって広く社会の発展に寄与することを目的とする。」
○短大学則第1条第3項	「保育学科においては、高い保育の専門性と豊かな人間性を兼ね備え、地域社会に貢献できる骨太な幼稚園教諭・保育士の養成と、その基礎となる教育研究の推進を目的とする。」

(2) 山村学園短期大学子ども学科 3つのポリシー

①ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

子ども学科では、建学の精神（質実・英知・愛敬）、学則にある短期大学及び子ども学科の目的に則り、学則第43条（卒業）に示す所定の教育課程を修め、66単位以上を累積 GPA 一定以上の成績で修得し、以下のような知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を備えた者に対し、その卒業を認定し短期大学士の学位を授与します。

（知識・技能）

- ・ 保育者としての専門的知識・技能
- ・ 社会人として必要な教養・知識

（思考力・判断力・表現力）

- ・ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、職業や社会における諸問題を自ら発見、分析、解決方法について
- 考察する力、さらに自分の考えを他者に口頭、文章、あるいは身体をもつて的確に表現する力

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

- ・ 保育への情熱と使命感を持って社会に貢献しようとする積極的な態度
- ・ 人や自然を深く愛し、慈しむ態度
- ・ 社会人として必要なマナー・常識・態度

②カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

子ども学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に示した資質・能力・態度を総合的に備えた学生を育成するために、以下のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づいて教育課程を編成するとともに、学生の学修学習過程や学修方法が明示された教育内容、教育方法をもって授業を実施し教育評価を行います。

（教育内容）

- ・ 保育者としての専門的知識・技能をはじめとして、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を育むため、教養科目及び専門科目を科目内容の分野や関連性から記号・番号をつけ、体系的、系統的にふまえて配置し、学生が学びの全体像や科目間の関連を容易に理解できるようにカリキュラムツリーを作成します。

- ・ 保育者としての使命感や態度、社会貢献への積極的な姿勢、人や自然を深く愛し、慈しむ態度等を涵養するため、学内外の自然・社会環境を利用した体験型の学習を取り入れた科目を配置します。

- ・ 1年次には、建学の精神を理解し、大学における学びへの適応を速やかにするとともに、社会性や学ぶ力の基礎を育むため「基礎演習」・「キャリアアップ・セミナーⅠ」を、2

年次には主体性、協働性、対話性、人間力を高めるため「総合演習」「キャリアアップ・セミナーⅡ」をそれぞれ配置します。

- ・保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状の取得に関する科目による幼稚園教諭・保育士養成課程を編成するとともに、その他保育者として資質向上に資する資格が取得できる科目を配置します。

(教育方法)

- ・シラバスには、各授業科目の到達目標や毎回の授業の予習・復習内容などを具体的に示すことで、学生の主体的で効果的な学習を支援します。

- ・授業科目の内容に応じて、アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、ゼミナール形態等を取り入れ、学生自身の問題発見、資料収集と分析、解決方法の検討、討議・発表の機会を多く提供することに努めます。

- ・保育の内容や保育技術、実習準備に関する科目については、少人数編成で効果的に学習できる授業展開とします。

- ・免許・資格取得のための現場実習や現場体験の学習を段階的に行い、これらを通じて保育者としての資質・能力・態度の修得に資するようにします。

(評価)

- ・単位認定にあたっては、シラバスに開示する成績評価と基準によって厳格な成績評価を行うとともに、半期ごとに GPA によって学修成果の達成状況を評価し、一定の GPA をクリアするよう学修支援・指導を行います。また、学生は学年ごとに自身の学習ポートフォリオを作成し、自らの学びの成果を自己点検・自己評価することができます。

- ・授業アンケートを半期ごとに実施し、個々の授業内容や方法の改善やカリキュラム編成の改善を検討します。

③アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

子ども学科では、建学の精神（「質実」、「英知」、「愛敬」）を理解するとともに、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かで広く社会の発展に寄与できる人材の育成方針に共感する、次のような者の入学を期待しています。

(知識・技能)

- ・幼児教育・保育の学習に必要な十分な基礎学力を備えている。
- ・音楽、造形、言語・身体などの表現技術などに親しんでいる、あるいはこれらを今後学ぶにふさわしい豊かな感性をもっている。
- ・社会人として必要な教養・知識を身につけようとする姿勢をもっている。

(思考力・判断力・表現力)

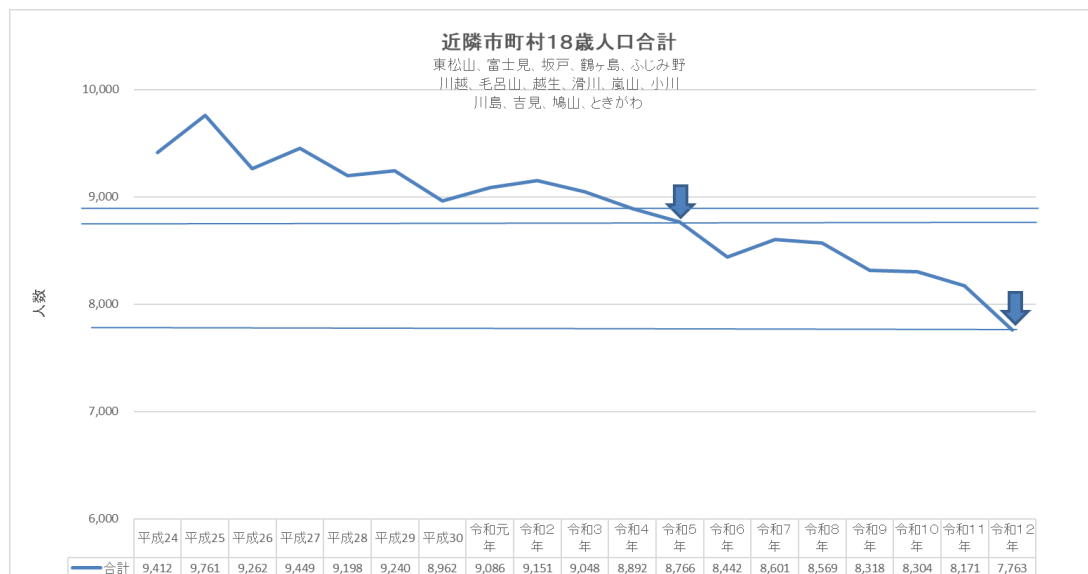
- ・学びの基礎となる「読む、書く、聞く、話す」能力や自ら課題を発見し、考え、判断し、行動できる力を高めようとする姿勢をもっている。

(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

- ・幼児教育・保育に情熱と使命感をもって取り組むことができる。

- ・人や動植物、自然に対する深い愛情を持っている。
- ・笑顔、挨拶、言葉づかいなど基本的な対人関係能力を備えている。

3. 18歳人口



令和4年と令和5年を比較すると1.4%の減少。令和5年度と令和12年度では、11.4%の減少となる。ただし、この図は人口流入の予測値は反映されておらず、単純に年齢別の人口を拾った数値である。平成30年度から令和4年度の近隣市町村の18歳人口は、8,800人以上と減少幅が一時的に少なかったが、令和5年からは、18歳人口がさらに減少する傾向が続く。

4. 学生募集

入学者数推移（人）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人数	71	70	74	65	70	52

上の表は、過去6年間の保育学科合格者数を示したものである。令和5年度の入学者数が大きく減少した。

	h27	h28	h29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	合計	平均
川越市	10	10	10	6	9	8	10	8	3	74	8.2
東松山	12	6	10	5	8	9	5	7	6	68	7.6
坂戸	6	10	5	9	5	6	6	13	2	62	6.9
鶴ヶ島	3	6	3	5	4	3	2	4	4	34	3.8
寄居町	2	2	5	3	5	3	4	1	1	26	2.9
毛呂山	4	3	2	5	2	3	4	2	3	28	3.1
小川町	6	5	3	0	2	3	4	1	2	26	2.9
日高市	6	1	1	1	5	1	2	2	0	19	2.1
ふじみ野市	4	3	4	4	0	0	1	3	1	20	2.2
秩父市	7	2	2	0	1	1	2	0	0	15	1.7
吉見町	2	3	2	3	2	0	0	2	1	15	1.7
富士見市	0	5	0	2	1	4	0	0	3	15	1.7
鳩山町	1	3	3	1	0	3	1	4	0	16	1.8
川島	3	3	1	2	1	1	0	1	3	15	1.7
嵐山	0	1	2	2	3	1	2	0	1	12	1.3
熊谷	2	0	1	1	0	3	4	1	0	12	1.3
秩父郡	1	0	3	0	1	3	1	0	0	9	1.0
越生	2	1	0	0	2	1	2	1	1	10	1.1
所沢市	0	1	1	1	2	2	1	1	0	9	1.0
滑川	2	1	1	0	1	1	2	2	2	12	1.3
深谷	2	2	1	1	0	0	0	1	0	7	0.8
狭山市	0	2	1	0	1	2	0	1	0	7	0.8
入間市	2	0	0	0	1	2	0	0	0	5	0.6
飯能市	1	1	0	1	0	0	2	0	0	5	0.6
ときがわ	0	0	1	1	0	1	2	3	2	10	1.1
上尾市	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4	0.4
さいたま市	1	1	0	0	0	1	0	0	1	4	0.4
鴻巣市	0	2	0	0	0	0	1	1	0	4	0.4
行田市	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0.2
桶川市	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.1
北本市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	81	74	65	54	56	62	59	59	36		

※その他の市町村からの入学者もいるがここでは近隣市町村に限定した。
※職業訓練生は除外した。

上の表は、過去 8 年間の主な市町村別入学者人数（職訓生除く）である。

東松山、川越、坂戸、鶴ヶ島などが多い。令和 5 年度入試では、昨年 59 名であったのに対し、令和 5 年度入試は 36 名と激減した。

主な高校からの入学者数

高校名	H28	H29	H30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5
山村国際高校	12	10	8	6	10	8	7	3
川越西高校	6	3	4	6	5	6	5	4
小川高校	6	4	5	5	5	5	1	3
県立越生	0	2	0	5	1	2	1	1
松山女子高校	1	1	5	3	3	1	2	1
武蔵越生	0	3	4	3	1	0	6	1
寄居城北	1	3	2	3	4	2	1	0
新座柳瀬	0	1	2	3	0	0	0	0
鴻巣女子高校	2	6	0	3	2	0	3	1
筑波大学付属坂戸高校	1	0	2	2	1	1	0	0
埼玉平成高校	1	2	1	2	1	0	1	2
川越初雁高校	0	1	1	2	1	0	0	0
狭山清陵高校	0	0	1	2	1	2	0	0
滑川総合高校	5	5	4	1	3	6	8	6
秋草学園高校	2	2	3	1	0	1	0	1
鳩山高校	3	3	1	1	2	1	2	0
富士見高校	1	2	1	1	1	0	2	0
飯能南	0	0	1	1	1	1	0	0
飯能高校	0	0	0	1	1	1	0	0
朝霞西	1	0	0	1	0	0	1	0
東京成徳大学深谷高校	3	1	3	0	2	1	0	1
鶴ヶ島清風高校	2	3	2	0	1	5	6	1
川越総合高校	1	0	2	0	2	1	0	3
山村学園高校	2	3	1	0	3	0	3	1
坂戸西高校	8	2	1	0	2	0	5	1
志本高校	5	2	1	0	1	0	1	0
豊岡	0	0	1	0	0	0	0	0
ふじみ野	0	0	1	0	0	0	1	1
市立川越	0	0	1	0	0	0	0	0
伊奈総合学園高校	0	1	0	0	0	0	0	0
誠和福祉高校	0	1	0	0	0	0	0	0
日高高校	1	0	0	0	0	0	1	0
本庄第一	1	0	0	0	0	1	0	0
正智深谷高校	0	0	0	0	0	1	0	0
大宮武蔵野高校	0	0	0	0	0	0	0	0
朝霞高校	0	0	0	0	1	0	1	0
西武台	0	0	0	0	0	0	0	0
深谷商業高校	0	0	0	0	0	0	0	0
狭山経済	0	0	0	0	0	0	0	0
秩父農工科学	1	2	0	0	0	1	1	0
川越南	0	1	0	0	0	1	0	0
	66	64	58	52	55	48	59	31

左の表は、過去7年間の主な高校別入学者数である。本学の特徴として、ひとつの高校から複数名が入学する傾向があるが、令和5年度入試では、5名を超える高校は、滑川総合高校のみとなった。

左記以外でも霞が関高校2名、清和学園1名など通信制の高校からの入学者が増えた。

また、北海道から入学する者や、外国での就学歴を持つ者が入学するなど多様な地域からの入学する学生が増えた。

5. 生活指導

	平成26年度生 97名入学 →92名	平成27年度生 94名入学 →83名	平成28年度生 87名入学 →78名	平成29年度生 73名入学 →67名	平成30年度生 71名入学 →70名	令和元年度生 70名入学 →68名	令和2年度生 73名入学 →68名	令和3年度生 65名入学 →61名	令和4年度生 70名入学 →66名
1年時退学者	5	10	8	6	1	2	1	3	4
2年時退学者	0	1	1	0	0	0	4	1	-
退学者数合計	5	11	9	6	1	2	5	4	4

上の表は、退学者数を表したものである。令和4年度は、入学者70名のうち、4名の退学者が予想される。メンタル上の問題、学業不振などが原因と考えられる。

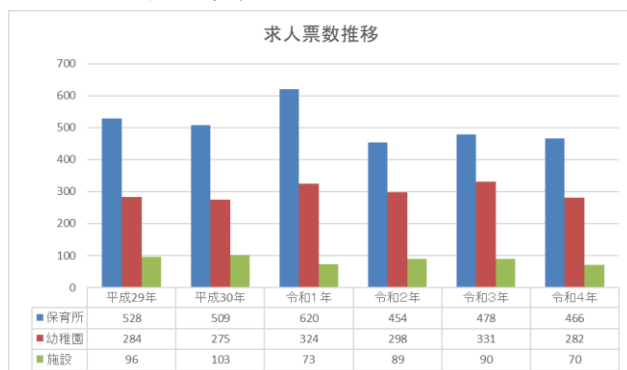
資料請求数・オープンキャンパス参加者数・入学者数

	H28	H28 割合	H29	H29 割合	H30	H30 割合	R1	R1 割合	R2	R2 割合	R3	R3 割合	R4	R4 割合
資料請求数	1006	100%	943	100%	657	100%	968	100%	918	100%	714	100%	681	100%
参加者人数（延べ数）	364	36%	277	29%	318	48%	278	29%	237	26%	307	43%	189	28%
参加者人数（1、2、3年生以上の実質数）	239	24%	179	19%	193	29%	182	19%	144	16%	169	24%	127	19%
参加者人数（3年生以上のみの実質数）	141	14%	125	13%	110	17%	98	10%	105	11%	103	14%	83	12%
次年度志願者数	74	7.4%	64	6.7%	65	10%	57	6%	57	6%	70	10%	53	8%

次年度志願者数/参加者人数（3年生以上のみの実質数） 52% 51% 59% 58% 54% 68% 64%

上の表は、平成28年度からのオープンキャンパス（年に12回程度）の参加状況と次年度志願者数をまとめたものである。昨年度は、オープンキャンパスに参加した3年生以上の受験生のうち68%（前年度比14%増）が実際に志願しており、かなり高い志願率を示している。今年度についても、64%と高い数字を維持しているが、参加者数自体が減少傾向にあることから、入学者数自体の伸びにはつながらなかったと言える。コロナ禍の影響も考えられ、コロナ禍前と比べるとオープンキャンパスに行く段階で参加する校数を絞っていることが考えられる。これまでは、参加者の歩留まりを増やすことに着目してきたが、それ以上にオープンキャンパスへ参加してもらう方策を重点的に考えていく必要がある。

6. 求人・就職



左の表は、平成29年度からの求人票数の推移をまとめたものである。令和4年度の求人票数を見ると、若干減っているが、依然として現場からのニーズは高い。

なお、求人票数とは、求人票の数であり、求人数ではない。実際の求人数は求人票数の数倍になると思われる。

また、キャリアタス UC というキャリア支援サイトによる、本学宛求人票数は、令和5年3月卒業生向けが、6415（前年は5472）届いている。内容は企業からの求人が多いが、幼稚園、保育園、施設、公務員等、全国多岐に亘っている。

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
現役合格	5	2	4	4	1	2	0	6
過年度卒	3	0	1	3	1	0	2	0
合計	8	2	5	7	2	2	2	6

上の表は、公務員試験の合格者数である。令和4年度は6名の合格者があった。

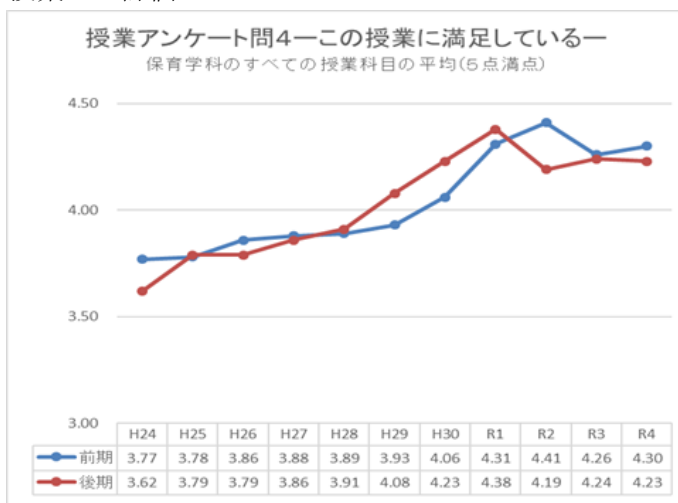
7. 本学への評価
(1) 就職先からの評価

令和3年度卒業生の勤務状況調査(所属長回答)									
回答率84.2%(依頼58名分・回答46名)					コメントは令和4年3月卒業生に関する記述				
1 出勤状況					(%)				
	年度	H30	H31R1	R2	R3				
	(1)たいへんよい	80.0	81.1	79.2	78.3	36			
	(2)ふつう	17.8	15.1	18.7	17.4	8			
	(3)努力が必要	2.2	3.8	2.1	4.3	2			
・体調を整える事が大切。(施)・欠勤が多い(保)									
2 勤務態度					(%)				
	年度	H30	H31R1	R2	R3				
	(1)たいへんよい	75.6	67.9	77.1	73.9	34			
	(2)ふつう	24.4	26.4	20.8	21.8	10			
	(3)努力が必要	0.0	5.7	2.1	4.3	2			
・エプロンのしわ等身だしなみに改善が必要(幼)・期日が守れない(保)									
3 幼児(施設:利用者)への関わり方									
	年度	H30	H31R1	R2	R3				
	(1)たいへんよい	57.8	49.1	58.3	76.1	35			
	(2)ふつう	37.8	47.1	35.4	17.4	8			
	(3)努力が必要	4.4	3.8	6.3	6.5	3			
・笑顔が無く声がけが足りず関わりも少ない。(幼)・一人一人の子どもの特性に応じた関わりを苦手としていて悩んでしまうところがある(保)・子どもの気持ちを理解して声がけや対応をしてほしい(保)									
4 環境構成力(施設等では環境整備、安全・安心への配慮)									
	年度	H30	H31R1	R2	R3				
	(1)たいへんよい	28.9	32.1	43.7	47.8	22			
	(2)ふつう	68.9	58.5	52.1	47.8	22			
	(3)努力が必要	2.2	9.4	4.2	4.4	2			
・事前準備が出来ておらず対応が出来ていない。(幼)・掃除ができていない。(幼) ・意欲があるので、今後経験を積んで成長してくれると思う(保)									
5 保護者への関わり方(利用者の家族への関わり方)									
	年度	H30	H31R1	R2	R3				
	(1)たいへんよい	33.3	33.3	37.5	60.9	28			
	(2)ふつう	64.4	58.3	56.3	32.6	15			
	(3)努力が必要	2.2	8.3	6.2	6.5	3			
・連絡ミスが多く信頼してもらえるような言動をとっていない。(幼)・強い発言があり目を合わせない(保) ・まだ緊張していて上手く話せないこともあるが一生県取り組もうと頑張っている。(保)									
6 他の職員との協調性									
	年度	H30	H31R1	R2	R3				
	(1)たいへんよい	66.7	54.7	68.8	76.1	35			
	(2)ふつう	28.9	41.5	25.0	17.4	8			
	(3)努力が必要	4.4	3.8	6.2	6.5	3			
・「報連相」が無い。感謝の気持ちが無い。(幼)・コミュニケーション不足(保)									

7 その他(本学への要望等)									
① よく頑張っている。(幼)									
② いつも卒業生の先生方に頑張って貰っている。(幼)									
③ 新卒らしく素直に表現出来、子どもとの関わりも短い期間で取れた。(保)									
④ 製作物が苦手な様子だけれど本人が素直に自覚しよく努力をしている。(保)									
⑤ 素直で何事にも責任をもって業務に励んでいる。(保)									
⑥ 他の保育士の意見やアドバイスを素直に受け入れ、わからないことはすぐに聞いて相談出来、一生懸命取り組んでいるのでとても好感が持てる。(保)									
⑦ 神経質に考え込んでしまう一面があり性格によるところがあるので考え方を変えていかないと難しい。(保)									
⑧ ピアノの指導をして欲しい(基本的な曲が弾けて、譜面が正しく読めるように)。(幼)									
【考察と課題】									
○学生指導の課題(教職員・学生に伝えること): ①体調不良等による早期離職を防ぐために、日々の生活リズムを整えることが大切であることから、学生時代より授業を休まず遅刻もしないよう指導することが課題である。 ②現場では報連相が大事。コロナで十分な実習が出来なかったので、不安を感じての就職となるが、報連相や素直に学ぶ姿勢があれば周囲との意思疎通が計れ成長していけることを伝え、実践させる。 ③ピアノの就職試験は減少しているが、保育者として必要であり、練習・上達は重要であることを指導する。 ④現場で必要となる制作や手遊び、ピアノ(歌)などなるべく多くのレパートリーを修得し、卒業後も学んでいく必要があることを伝え、指導する。 ⑤人との関わり方、話し方、コミュニケーション能力(協調性)を高めるため、ワークを用いて学習し、素直に学ぶ姿勢を養う。 ★回答にコメントの記載は少なかった。厳しいコメントはごく一部の卒業生についてのもので、殆どの卒業生については問題が無かった。 ★対面で人と接する機会が減った世代なので、職場の先輩や同僚、保護者との接し方について、これまでに以上にワークで学ぶ必要がある。また、これまで通り、日頃より各場面で教職員が学生とコミュニケーションをとり、協調性・積極性・学び方をも養うよう促していく。									

上の表およびグラフは、就職一年目の卒業生に対する就職先からの評価である。総合的に見て、ほとんどの項目において、前年度を上回っている。特に子どもへの関わり、環境構成力、保護者への関わり、職員との協調性など、コミュニケーションに関することについて評価されている。その一方で、ピアノのスキルに関する要望が出された。

(2) 授業への評価

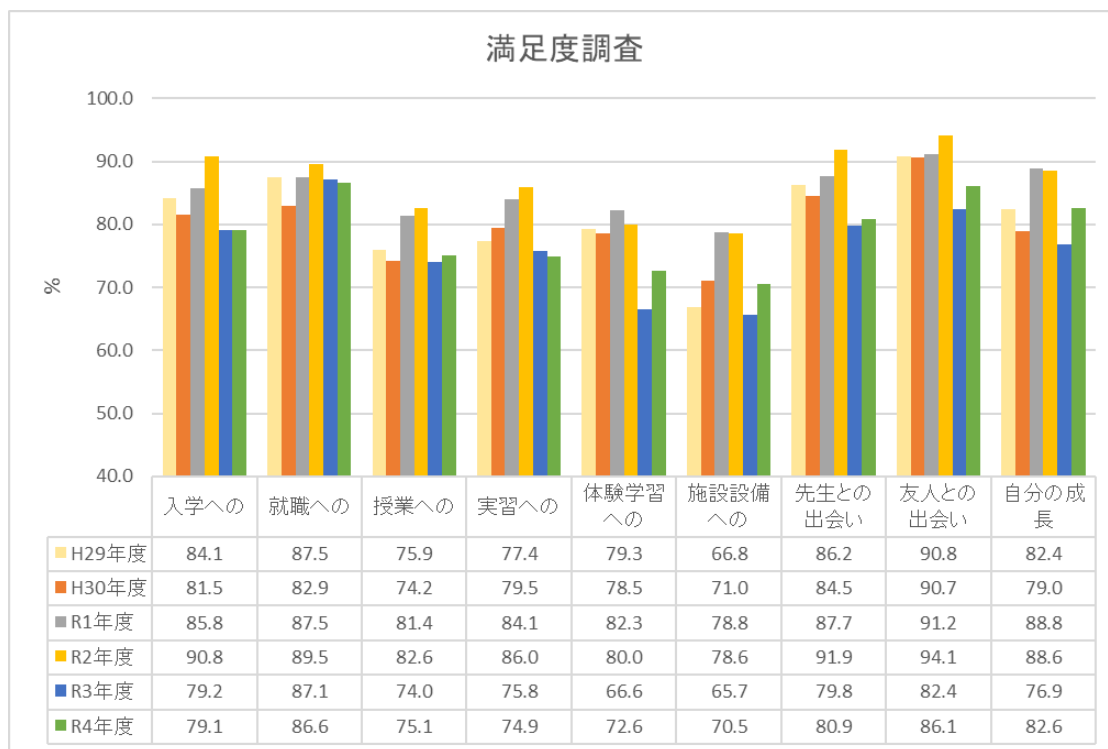


左のグラフは、子ども学科のすべての授業に対して、学生が5点満点で評価する満足度の調査結果の平均である。令和1～2年をピークにやや値が下降気味だったが、令和4年度にかけてやや持ち直している。

昨年度よりも値が回復しつつあるのは、コロナ禍でも実施できる行事のあり方を工夫できた点、そ

れが定着しつつある点が挙げられる。入学時からコロナ禍にあった学年であるが、コロナ禍での行事、授業のあり方の工夫によって改善の余地があることが考えられる。

(3) 学生満足度調査



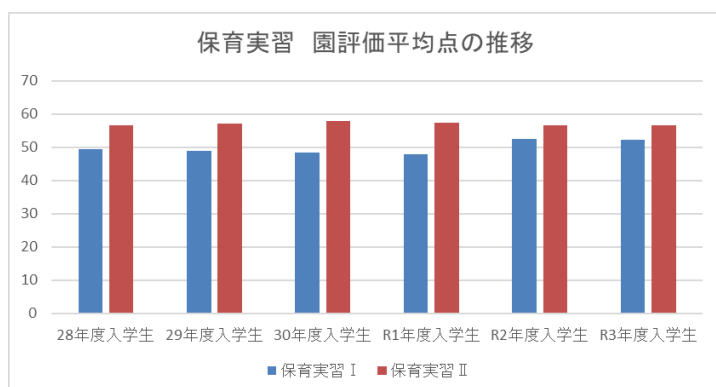
先生や仲間と密に関われたところがよかったです。
公務員講座やピアヘルパー、乳児小児救命法など学校で講座を開いてくれるのでいろんな資格や経験ができたと思います。
後は、芙蓉館でのピアノのテストで、人前でピアノを弾く経験ができました。学校の人数が少ないので先生との相談も気楽にできたりしました。
様々な体験を通して学ぶことが出来たので良かったです。
希望の就職先に就職できた事。
たくさんの友達と出会って色んなことを乗り越えることが出来たから良かった
自然が多いこと、子どもを呼んで行事ができること。
楽しかった
実践的な授業が多く、実習で活かせることが多くて良かったです。素敵な友達もできました。就職も宇田川先生が手厚くサポートしてくれたので安心でした。
保育士資格が取れた
いい友達に出会えたこと
入学当初は中々馴染めないこともあり大変でしたが、先生方に背中を押してもらい実習なども乗り越えることが出来ました。
先生方が親身になって就職まで導いてくれたこと。一人一人の性格などを知ろうとしてくれ、その人にあった指導方法をしてくれるところ。
たくさん実習とかして、人間関係の大切さ、手遊びやピアノなど様々なことを知ることが出来てよかったです。
「よーふらよーふら」などの行事があったことで実際に体験して学ぶことが出来てよかった
遊びが多い、先生が一人一人のことを理解していることが多い、就職について話を聞いてくれる
深い話ができる友達ができ、優しく励まし支えてくれた先生がいて、きっとこれからも関わっていくと思うので大切にしたいです。
資格がしっかり取れる
素敵な友達と親身になってくださる先生方と出会えてとてもよかったです！！
自然いっぱい先生たちとも距離が近くてアットホームな大学でした温かかったです
様々な学びが出来たこと
自然を使った遊びを体験出来て良かったです
実践が多いこと少人数だから先生とも学生とも親近感があった
先生方の授業内容、様々な対応がとても助けになった
友達たくさんできたこと
自然の中での遊び知識体験が身についたり、先生との距離が近いこと、性格や悩みを理解してくれるところから具体的な相談、進路について協力してもらい卒業できました。ありがとうございました
人数が少ない分、学年のほとんどの人と話す機会があったりお友達になれたこと自分のやりたいことを見つけることができたこと
経験談とか話してくれるがいたから分かりやすかった
保育士免許と幼稚園免許が取れた
「やまたん」に入学してこの2年間一番ためになったことは実習です。幼稚園、施設、保育園、等の実習を経験して大変な事がある中でも学んだ事が多く、自分自身のためにとてもためになったと感じます。
同じ夢に向かって一生懸命励まし合う友人と出会えて本当に良かったです。
やまたん」に入学して、たくさんの素敵な友達に出会えたことと、保育士になるという夢を叶えることが出来たので「やまたん」に入学して良かったと思います。
ピアノが少しできるようになったこと
実習など細かく先生方が指導してくれたので安心して実習にのぞめた
良い友達に出会えた
2年で且つ楽しく演習が多めで学べたこと。授業ないで農業を活用した学びができたこと
この学校ならではの授業ができていい経験になりました！
先生達の寄り添いがある場で学習できた。生徒の主体性を重要視しているところ。
アットホームな雰囲気が良かった。
自分自身のことや人生観について、見つめ直す機会となり、成長することができた。
新しいことを学ぶ機会ができてよかったです
自然があり広々とした校舎でのびのび過ごせたこと。
本当に楽しい2年間でした卒業したくない
やりたい事を見つけられた。
実習死んだかと思ったけど最後の実習でめっちゃめっちゃ成長でき、自分にめっちゃ感動した。

上のグラフ等は、短大全体について卒業生（平成 30 年 3 月卒業～令和 5 年 3 月卒業）に対して行った満足度調査の結果である。全般的に高い満足度であると言える。特に「友人との出会い」、「教員との出会い」「自分の成長」、「就職」に関して高い値となっている。

前年度よりも数値は改善したものの、実習に関する満足度が前年を下回っており、実習に関する全体的な点検、見直しをする必要がある。

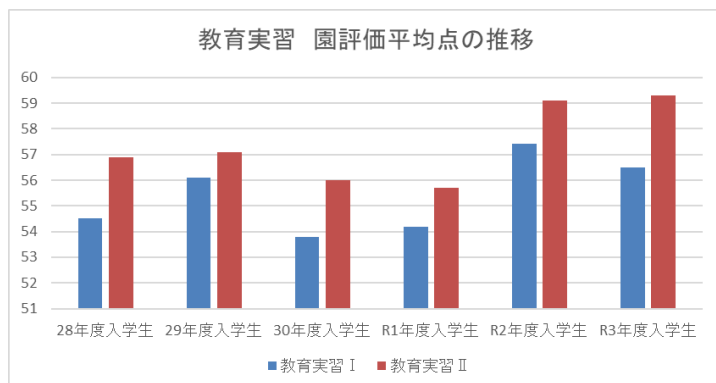
自由記述においても、教員との関係、友人との関係での満足度が高く、本学の大きな強みとなっている。

(4) 実習での評価



左の表は、保育実習（1 年生時に保育実習 I、2 年生時に保育実習 II を実施）に対する、園から学生への評価点の平均値を学年ごとに示したものである。評価項目の主な内容は、実習態度、保育者としての資質、指導力などである。コロナ禍においても、対面授業を継続し、実習

も可能な限り実施した成果として、例年と遜色のない評価になったと思われる。



左の表は、教育実習 I・II に対する園からの学生への評価点の平均値を学年ごとにまとめたものである。平成 29 年入学生をピークに徐々に点数が下がっていたが、その後上昇に転じている。教育実習に関しても、コロナ禍において対面授業を継続

し、実習も可能な限り実施した成果であると考えられる。

(5) 財務状況

- ・ 入学者数の減少により財務状況は極めて厳しい状況にある。私立大学改革総合支援事業 type3 では補助金を獲得でき、人件費について、事務局員の人員の削減、再雇用により支出の抑制ができたが、入学者数の減少に伴い経常費補助金が減少し、経年の劣化による施設設備の修繕にかかる費用が増加したこと等により全体の収支は支出超過となった。

・

8. 財務状況

収支推移表(令和4～8年度)					2023.3.17
	3/1現在				
1年	59+(訓練生7)	41+(訓練生11)	60+(訓練生10)	70+(訓練生10)	70+(訓練生11)
2年	57+(訓練生7)	59+(訓練生7)	41+(訓練生11)	60+(訓練生11)	70+(訓練生10)
年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
学生生徒等納付金収入	141,440,000	121,050,000	117,620,000	161,560,000	169,400,000
手数料収入	2,110,000	2,080,000	2,100,000	2,400,000	2,400,000
寄附金収入	12,620,000	600,000	600,000	600,000	600,000
補助金収入	32,070,000	29,200,000	28,000,000	30,000,000	30,000,000
資金運用収入	0	0	0	0	0
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随・収益収入	23,600,000	27,830,000	31,040,000	31,040,000	31,040,000
雑収入(施設利用料)	12,480,000	5,600,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
借入金等収入	0	0	0	0	0
収入の部 合計	224,320,000	186,360,000	184,360,000	230,600,000	238,440,000
支出の部					
年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
人件費支出	156,340,000	143,590,000	145,000,000	145,000,000	145,000,000
教育研究経費支出	31,750,000	27,590,000	27,000,000	27,000,000	27,000,000
管理経費支出	25,800,000	26,730,000	24,000,000	24,000,000	24,000,000
(修繕)					
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	7,150,000	0	0	0	0
設備関係支出	6,150,000	950,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
資産運用支出	0	0	0	0	0
繰出金支出	14,746,000	14,520,000	14,000,000	14,000,000	14,000,000
引当金	0	0	0	0	0
支出の部 合計	241,936,000	213,380,000	211,000,000	211,000,000	211,000,000
収支差額	△ 17,616,000	△ 27,020,000	△ 26,640,000	19,600,000	27,440,000

(1) 財務の見通し等

- ・ 財務状況は、6月、7月、8月、12月に資金が一時的に不足する可能性が高い。
- ・ 令和6年度以降、入学者は70名から80名を想定。(うち職業訓練生10名以上)を想定。
- ・ 令和5年度以降は、補助金は約3,000万円を想定。うち500万円は、私立大学等改革総合支援事業 type 3の補助金を想定している。
- ・ 人件費は、教員数11名、現状維持で想定。11名は、文科省が定める最少人数。
- ・ 職業訓練生10名以上の入学者を想定。

- ・ 高校卒+職業訓練生の合計が 75～80 名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却特定引当金や将来に向けての資金の積み立てはできない。

(2) 人件費

人件費は、専任教員 11 名を想定している。これは文科省が定めるこの規模の保育学科の最少人数である。事務局員は R 2 年度から 1 名マイナスとし、5 名とした。また、一時金は 3.0 か月とした。令和 5 年度は、再雇用制度、基幹教員制度を活用し、700 万円程度削減する。さらに、手当などの調整を行い人件費について可能な限り圧縮をはかる。

(3) 施設・設備更新

がけ崩れの修繕等、必要最小限の修繕を行う予定である。しかし、施設設備の老朽化は進んでおり、突発的な修繕が必要になる可能性もある。

(4) 次年度繰越金

現状の入学数では減少が続く。高校卒+職業訓練生の合計が 75～80 名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却引当特定預金や将来に向けた資金の積み立てはできない。

(5) 積立金

積立金については、令和 4 年度については行わない。

(6) その他の経費節減

人件費以外では、光熱水費の節約等、日用品の節約等に努める。

9. 行政の施策

(1) 埼玉県子育て応援行動計画

埼玉県全体では、新たな子育て応援行動計画（令和 2 年度から令和 6 年度）を策定し、保育の受け入れ枠の確保、認定こども園の整備、小規模保育事業等の連携施設の確保、延長保育の実施、保育人材の確保、保育環境の向上をうたい、保育施策の充実を計画している。

(2) 高等教育無償化

令和 2 年度から、高等教育の無償化が導入された。住民税非課税世帯を中心に年収 270 万円以下から 380 万円以下までの世帯が対象となる。本学は、令和元年度から高等教育無償化の対象となる短大として認可されている。

(3) 幼児教育無償化

令和元年 10 月から幼児教育・保育の無償化がスタートした。子どもを預ける世帯が増え、現場での保育士、幼稚園教諭への採用ニーズは高くなると予想される。

II. 令和4年度（2022年度）事業報告一覧表

	令和4年度（2022年度）	結果	評価
学生募集 ・目標値	・入学者の数100名を基準。 ・資料請求数800（入学者を資料請求数の10%とした場合）。 ・3年生以上の実質参加者数117名。 ・志願者数80名が目標。	・681人 ・83人 ・53人	× × ×
学生募集確保	・Sustainable Campusの実現。施設面。ソフト面。 ・コンサルタントの活用。 ・職業訓練生の募集 ・ホームページ、ランディングページの活用。 ・新たなプロモーション動画の作成。 ・SNSの活用。新たにTikTokを含めたSNS広報の活用。 ・公民館等に履修プログラムの案内を配布する。 ・コンビニにおいても広報できないか検討する。 ・近隣の高等学校や地域の市町村との教育包括協定に基づき、地域貢献するとともに高校生、中学生、小学生が本学に訪問する機会を増やす。 ・その他高校側のニーズを開拓（定時制高校、通信制高校などへのアプローチを強化） ・保育者に対して、待遇面についてのデータを作成したり、各自治体等が取り組んでいる補助金制度などをまとめたりし、本学から積極的に情報発信する。 ・高等学校への出前授業の強化。特に家庭科の授業の中で出前授業を展開し、本学の認知度を高める。家庭科では保育に関する授業内容で短大、大学での学びについて紹介したいというニーズがあり、それに応えることで地域への貢献も図る。 ・中学校、高校のPTAへのアプローチ。在校生に行ったアンケートによると、親からの勧めで入学している者が一定割合いることから、地元での認知度を高めるため、中学校約40校、高校約20校の目標値を掲げ、PTA役員へのアプローチを展開する。 ・学生によるSNSサイトの運営、PR。	・フューサル、ブロード、新カリキュラム開始 ・リスティング広告、hp改善 ・11名入学 ・改善 ・未作成 ・配信開始 ・配付済み ・未実施 ・Tjupでイベント交流実施、入試説明会参加、鳩山高校への文化祭参加、子ども大学参加。 ・次年度に向けて指定校増やす。 ・hpに処遇改善についてのページを作成。 ・滑川総合高校、飯能高校で実施。 ・公開講座、職業訓練の広報を実施。 ・インスタグラム実施。 ・TikTokについても実施。	○ ○ ○ ○ × ○ ○ × ○ ○ △ ○ ○ ○
経常費補助金・私立大学等改革総合支援事業	・経常費補助金の確実な獲得。 ・タイプ1で600万円、タイプ3で600万円の獲得を目指す。	・タイプ3のみ獲得。	・△
新カリキュラムの運用・コンセプトの点検	・新カリキュラムの運用。次年度の科目設定。SDGsの扱い。 ・自然環境を保育に活かせるカリキュラムの検討。 ・フィンランドの保育の研究。	・新カリキュラムスタート	・○
卒業までに身につけるべき学習成果について	・設定された学習成果をもとに、そのチェックの仕方を確立。ディプロマサプリメント。 ・カリキュラムツリー、ポートフォリオの運用定着。	・新しい計算方法で試算したが、期待する結果は得られず。 ・実施済	・△ ○
授業の質の向上	・前期、後期ともに問四4.0以上を目標とする。	・前期4.3 後期4.2	・○
少人数教育の深化	・マスク着用下でも氏名を覚える工夫をする。 ・満足度調査において、友人との出会い、先生との出会いが90%以上になることを目標とする。	・全員の名前、写真を教職員に配付。 ・友人との出会い86.1% ・先生との出会い80.9%	・△ × ×
実習	・保育実習Ⅰは50点以上、保育実習Ⅱは55点を基準。 ・教育実習Ⅰは55.0、教育実習Ⅱは58.0を基準。	・保育実習Ⅰ52、保育実習Ⅱ57	・
SDGsに向けた保育の実践	・Natural 保育検定基礎編合格者数について、令和3年入学生の合格60名。令和4年入学者45名を目標。 ・Natural 保育検定応用編合格者数について、平成31年入学生の合格者30名。平成31年入学者15名を目標。 ・その他、SDGsに関わる取り組みの洗い出し。	・R3入学生61名、R4入学生46名合格。 ・R3入学生41名、R4入学生8名合格。 ・委員会により検討済	・△ △ ○

		SDGs 科目の内容検討。その他、腐葉土作成、どんぐり銀行、養蜂、学内植物名札制作。	
生活指導	・退学者防止。退学者 0 を目標。	・4 名退学	・×
進路指導	・就職希望者数を母数とした就職率 100%以上を目標 ・公務員試験合格人数 3 名以上 ・就職先からのアンケートで「たいへんよい」の割合が、出勤状況 80%、勤務態度 70%、幼児への関わり方 50%、環境構成力 40%、保護者への関わり方 35%、他の職員との協調性 60%を目標	・100% ・6 名合格 ・出勤状況 78%、勤務態度 74%、幼児への関わり方 76%、環境構成力 48%、保護者への関わり方 61%、他の職員との協調性 76%を目標	・○ ・◎ ・◎
施設・設備	・100 周年記念事業として、中庭にプロムナードおよびファイヤーサークルを設置。 ・また、中庭を脱炭素社会を考えるステージとして活用する。 ・その他補修計画を立てる。	・設置済 ・実施計画あり ・未済	・○ ・○ ・×
学生満足度調査	・入学への満足度 80%、就職への満足度 85%、授業への満足度 75%、実習への満足度 75%、体験学習への満足度 80%、施設設備への満足度 70%、先生との出会いへの満足度 85%、友人との出会い 90%、自分の成長 80%を目標	・入学への満足度 79%、就職への満足度 87%、授業への満足度 75%、実習への満足度 75%、体験学習への満足度 73%、施設設備への満足度 71%、先生との出会いへの満足度 81%、友人との出会い 86%、自分の成長 83%	・△
人件費	・教員数については最少人数で臨む。 ・事務局員数は現状維持。	・11 名 ・現状維持	・○ ・○
資産売却	・研修センターの売却を進める。	・検討・協議中	・△